

お子さまの発達に不安や困り感は ございませんか??

私たちがご家族まるっと支援します!



こんなお悩みはありませんか?

お子様

- かんしゃくがひどい
- 友達と遊べない
- 気持ちを表現することが苦手
- ゲームから離れづらい
- 引きこもり傾向
- 学校に行かない、あるいは行き渋りがある



ご家族

- 子どもの気持ちがわかりにくい
- 子どもの将来が不安
- 相談する相手がいない
- 子どもの事でイライラする
- 子育てに関する不安がある



経験豊富な看護師や作業療法士がご自宅にお伺いし、おひとりおひとりの思いを大切にしながら、お悩みに寄り添い良い方向に進むように誠心誠意お手伝いいたします!!

愛媛で初の発達障がい児者へ特化した訪問看護ステーションです!

お問合せ・ご相談
フォーム↓



おらんじゅ訪問看護リハビリステーション

〒791-8013 松山市山越5丁目8番6号 TEL: 089-927-3739

通常訪問地域: 松山市(旧北条含む)・伊予市・東温市・松前町・砥部町
他地域は要相談

裏も
見てね

小6 男児A君の場合：自閉症スペクトラム障害

小学2年次から不登校になり3年次から訪問看護開始。家庭の事情から日中ひとりで自宅で過ごすことが多く、ゲーム中心の生活となり昼夜逆転の生活が長く続いていた。訪問時には本人、家族の意向を聞き取り、できるだけA君のペースに合わせA君が好む活動を探していった。同時に「外に出る」ことを目的に放課後等デイサービスの利用を提案し、利用に繋がった。その後も定期的に訪問しコミュニケーションをとっていく中で、A君から「今の苦しみ」や「少し先の将来のこと」が話題に上がり始め意識の変化が生まれた。5年次の終わりから生活リズムも徐々に整い始め、夜間の睡眠が十分にとれるようになったことで日中の活動量も増えてきた。

訪問時に話してくれた将来の夢は「料理人になる！」こと。今は訪問時に簡単な調理を実施している。また、訪問の担当者が学校や関係機関と連携を図り、A君の希望で放課後登校に繋がった。今は自分の「できること」に目が向いて自信を回復してきている。



(保護者より)

子どもが先生と楽しく過ごしており、よい方向に向かっているので利用してよかったです。

中1 男児B君の場合：

自閉症スペクトラム障害

小学2年次から不登校で、一時は家族との外出もままならない状況だった。放課後等デイサービス「発達支援ルームでこポン」には何とか行けるようになったが、放課後等デイサービスは高校を卒業すると利用できなくなりサービスが切れてしまうため、将来を考えた保護者の方が年齢に関係なく切れ目のない支援が受けられるように・・・と、訪問を希望され小学3年次より訪問看護の利用を開始された。

訪問担当者とは遊びを通して関係を作り、なかなか外に出ないB君と「外出訓練」も行った。保護者の方の不安や辛い思いを傾聴し助言するなどご家族に対しても支援した。小学6年次には少しずつ学校で過ごせるようになり、学校生活を楽しめるようになり、友達と交流しながらの下校など小学生らしい姿がみられるようになった。この良い流れを断ち切らぬよう、訪問担当者のご家族や小中学校、関係機関との話し合いを重ね連携を図り、卒業→入学→中学校生活の良いスタートを切ることが出来た。今B君は少しずつ、自分の特性に目が向き、自己理解に努め自分が困らないための工夫を始めている。



高1 女児Cちゃんの場合： 広汎性発達障害

支援級になじめず不登校の日が続き、学校側は進路として特別支援学校を勧めていた中学2年次より訪問看護開始。訪問中、一緒に勉強したり、したくてもできなかった裁縫活動を行った。また、訪問担当者は学校に対して、少しでも通いやすくなるための働きかけを行った。訪問を続けコミュニケーションを図る中で、本人に夢ができ、普通高校に進学したい強い思いが生まれた。訪問担当者はその気持ちに寄り添い勇気づける支援を続けた。今春、希望していた普通高校の試験に合格し、現在は新たな環境で高校生活を楽しんでいる。

(保護者より)

訪問をいつも楽しみにしています。困ったことや悩んでいることを相談して安心でき、母親にできない話も聞いてもらえて助かっています。

掲載の事例の他に未就学児や大人の方への訪問も行っています。

ホームページはこちらから →

